

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈1月末現在〉

農業▷10人 教育魅力化▷3人
起業型▷9人 協働型▷8人

農業支援員

なかの ゆういち
中野 佑一さん

着任：令和4年4月(3年目)
出身：苫小牧市



—農家になろうとしたきっかけや農業で独立を考えた理由は？

農機具などを取り扱う企業で営業職をしていた時に農業を身近に感じて農業の面白さに気付きました。以前から、企業に所属して仕事をするのではなく個人で自由に仕事してみたいという思いを持っていました。自分が頑張った分、しっかり自分に返ってくることでやりがいにつながると思っています。結果はすべて自分次第。そこが農業の醍醐味だと思います。

—3年間を振り返り、特に印象に残っていることは？

ホウレンソウ、カボチャ、イチゴ、ブロッコリーなどの生産方法などを学びました。ホウレンソウの生産は「初心者向け」とはいえ、知れば知るほど奥が深く難しい作物です。記録的な猛暑の年には、ホウレンソウがなかなか成長してくれずに苦労しました。そのような環境の中でも、しっかりと生産している農家さんはいます。暑い

夏にも耐えられる品種の選定や水の量、温度、土の状態をしっかりと管理できるかどうかで生育状況が変わることを学びました。農業において「たぶんいけるでしょ!」、「まあいいか!」は通用しないのだと身をもって知りました。

—就農する農地は見つかりましたか？

いろいろな人たちの協力をいただきながら農地を探ることができました。そこにはビニールハウスを5棟建てました。それ以上に地域の方々との人間関係の構築がとても大切です。可愛がってもらえるように、認めてもらえるようになるため、まじめに頑張ることが大切だと思います。自分は気付いてなくても周りの人はよく見ている、見られている感覚は常に持っています。

—どんな農家になりたいですか？目標は？

ホウレンソウ農家として、町内で一目置かれるような存在になりたいです。でも、まずはホウレンソウの生産者として自分が生活できるように頑張ります。安定的な生産量をしっかりと確保すること、そして品質の良いホウレンソウを生産できるように励みたいと思います。

厚真町とみなさんの関係をつなぐウェブサイト「あつまのおと」では、地域おこし協力隊の情報をはじめ、町の「ヒト・コト・モノ」、「挑戦と出会い」の情報を発信しています。

